

今年2月、甲府で開催された審査で六段に昇段することができました。

コロナ禍の中、稽古場所・時間を確保し、ともに稽古しご指導いただきました新宿区剣道連盟並びに東京都交通局巢鴨駅務区(板橋)剣道部の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

私は、昭和43年高校入学後、クラブ活動で剣道を始めました。当時は女子の剣道は珍しく高校一、二年時は個人戦のみ、三年生の時、初めて3人制の女子団体戦(都大会)ができましたが参加校は二十数校程度。でも2年後には、女子の団体戦も男子と同じく5人制となり、都大会に100校以上が参加、今と変わらない状況となりました。

私は、高校で二段、大学で三段を取得しました。社会人になってからも、剣道を続けましたがなかなか昇段できず、五段に昇段したのは、定年退職後の63歳でした。

その私が、受審資格取得後一年で六段審査合格、本人も驚いています。

私の得意技は60歳前半の頃は「攻めて抜き胴」でしたが、最近はおっぱら「面返し胴」。攻めが弱く「打ち遅れ」を指摘されていました。しかし、昨年11月の東京の審査で複数の係員の方から「胴良かったですよ」と言われ、評価通知(はがき)も「C」→「B」(一定の評価)に。そこで次の審査に向けて、

・背筋を伸ばして大きくしっかりと構える。 ・攻めを厳しく ・先をとり打ち遅れないことを目標に稽古しました。

当日の審査では、背筋を伸ばしてしっかりと構えました。相手の方が大きな面を打ってきましたので、きれいに胴を抜くことができました。

しかし、日本剣道形。審査が近くなると間違えないかと不安が。何度稽古しても解消できませんでした。そして不安の中。小太刀二本目、なぜか合わないまま中央で立往生。私(仕太刀)が間違えたのかと思いましたが、相手(打太刀)の方に「自分が間違えた」といわれました。審判からは事前に「審判の指示がない限り、やり直してはいけない」との指示がありましたので、相手の方に「やり直しの指示がないので、このまま別れて三本目を打ちましょう」とお話しして別れ、無事三本目を打ち終えました。結果発表までドキドキしましたが、二人とも無事合格。周りの受審者に「再審でなくて、よかったですね」と祝福されました。何があっても慌てず落ち着いて対応することの大切さを感じました。

最後に10代からこの年まで続けることができ、様々な方と交流できたのは、剣道ならではだと思っています。これからも、よろしく願いいたします。